
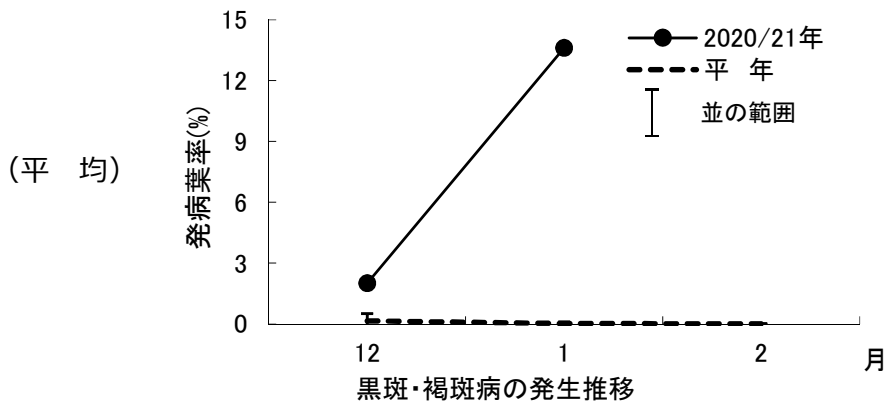
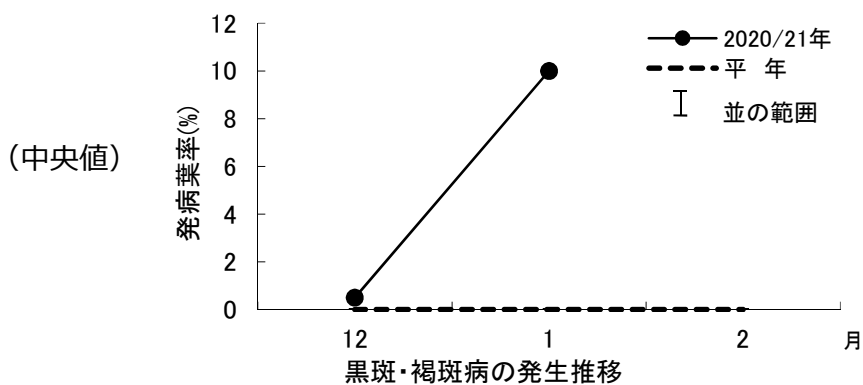


作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病		
調査結果	1 月の発生量（平年比）	多	
予報	1 月からの増減傾向	→	
	2 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	


調査結果



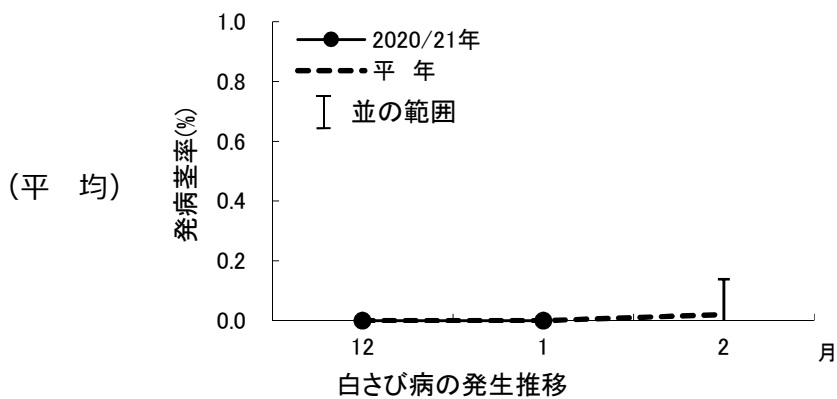
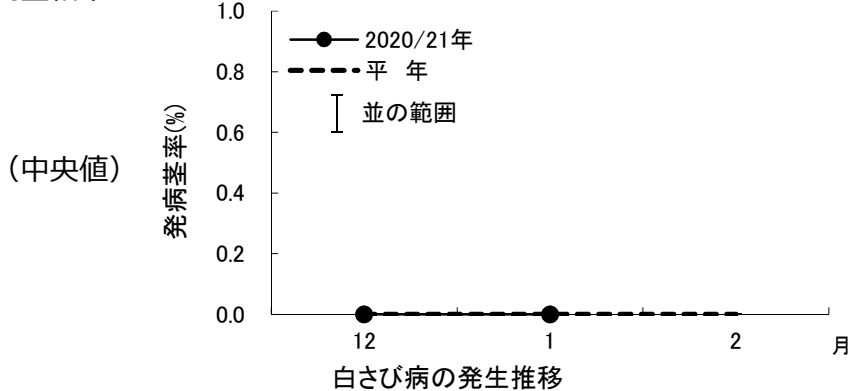
・発生ほ場率：66.7%（平年値：7.4%）

防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		


調査結果



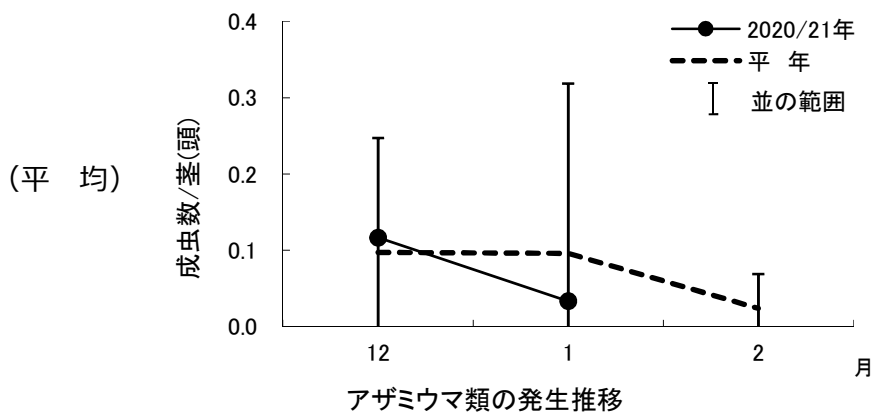
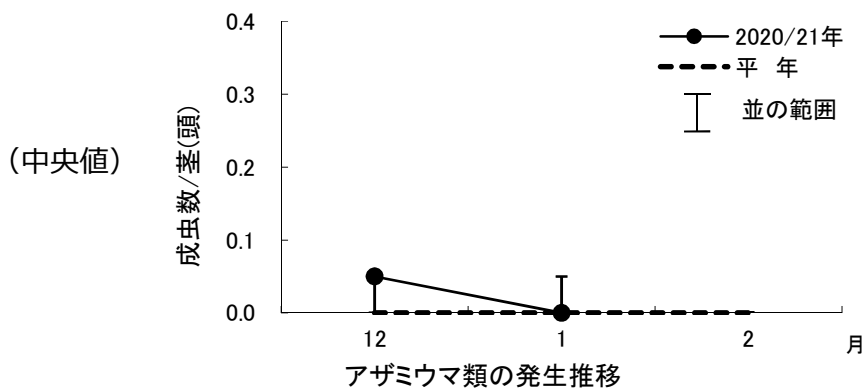
・発生ほ場率：0.0%（平年値：0.0%）

防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並	
予報	1 月からの増減傾向	→	
	2 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	


調査結果



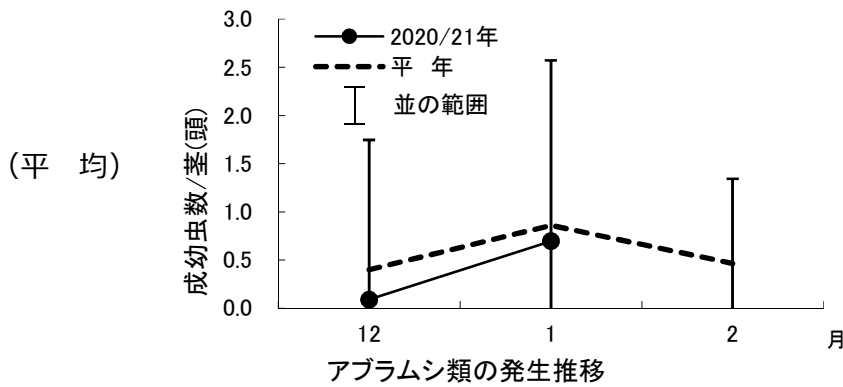
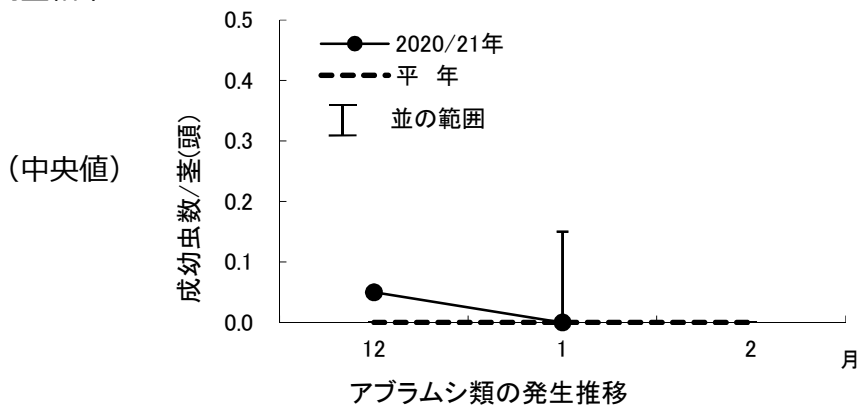
・発生ほ場率：33.3%（平年値：35.6%）

防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並	
予報	1 月からの増減傾向	→	
	2 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果




・発生ほ場率：44.4%（平年値：42.4%）

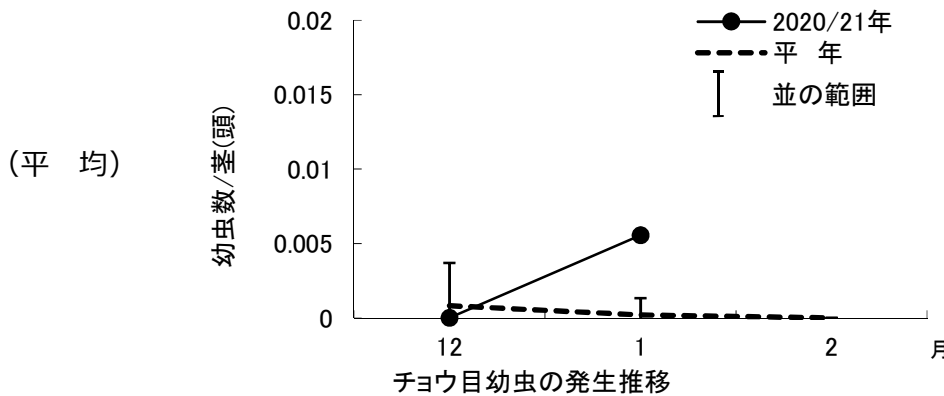
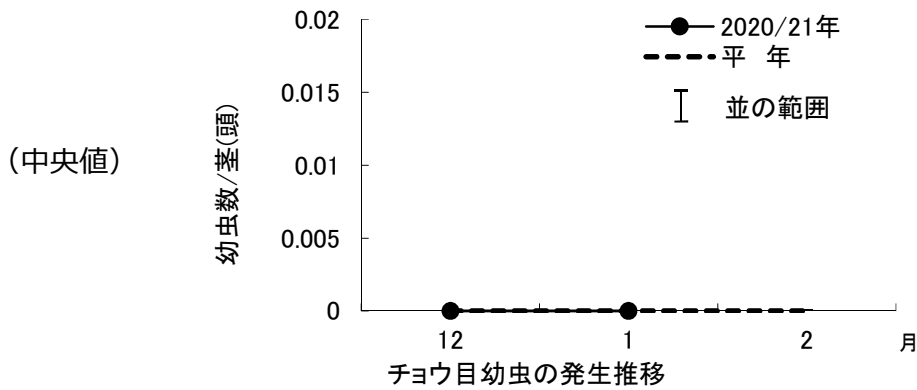
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並	
予報	1 月からの増減傾向	→	
	2 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	


調査結果



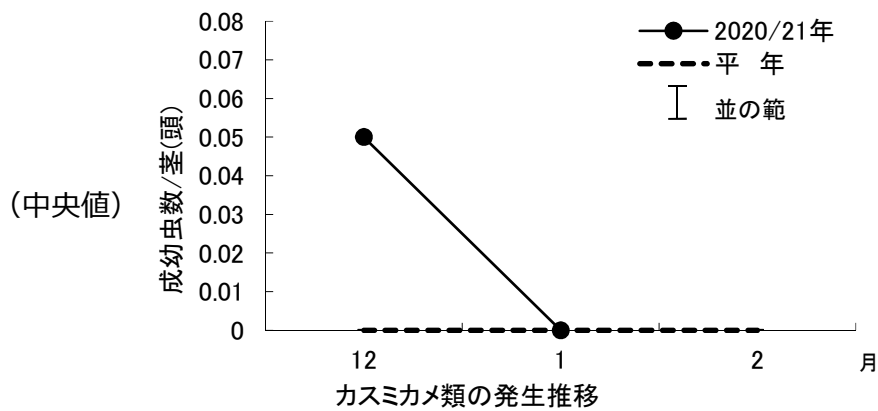
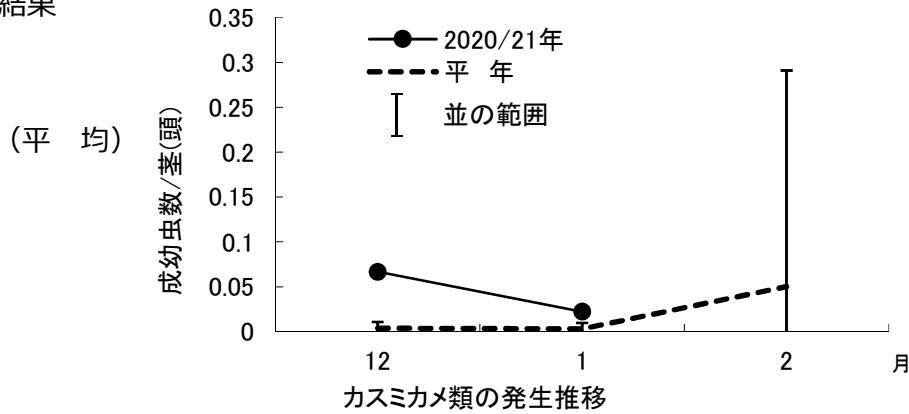
・発生ほ場率：11.1%（平年値：0.8%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	② カスミカメ類		
調査結果	1 月の発生量（平年比）	多	
予報	1 月からの増減傾向	↗	
	2 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	


調査結果



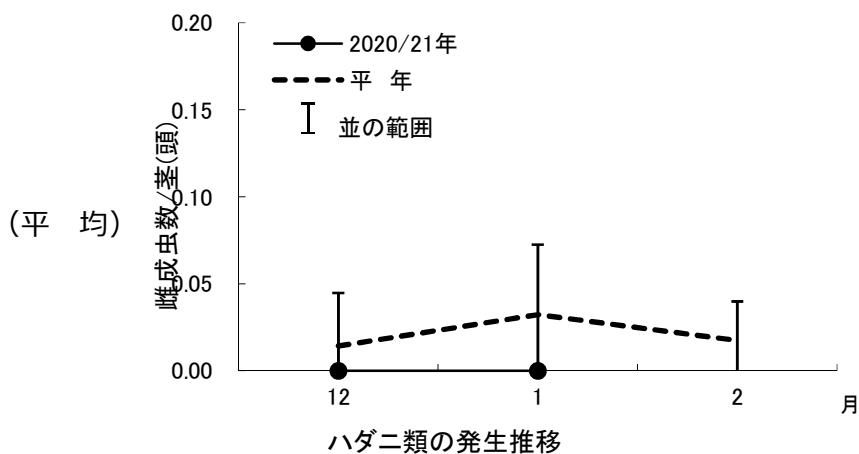
- ・発生ほ場率：33.3%（平年値：9.1%）
- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・病害虫防除員報告：多発生（久米島）

防除のポイント

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果



・発生ほ場率：0.0%（平年値：16.7%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。